

未来創造志塾 6期第1回 (H1 9.3.19)

「山本勘助と信玄」に学ぶ トップと参謀の条件とは?

未来創造志塾 建塾の志

目的

二十一世紀、新しい時代の大転換期を生き抜くための理念や経営の哲学を共に学び合う
 経世済民の高い志を持ち、日本人としての使命を探究し、切磋琢磨し合い、未来に向けての価値を
 創造し、共感の和を広げる。

誓い

一、大局観察

何事も高所、大局から、情勢判断する習慣を心掛けます。

一、使命探究

人間の持つ無限の可能性を信じ、自らの使命を探求し、価値の創造に努めます。

一、自己挑戦

常に智恵と向上心と勇気を忘れず、共に励ましあい、立派な日本人となることを目指します。

6期テーマ 東洋思想・哲学を学び、トップ・幹部に必須な人間学を身に付ける!

賢者は歴史に学び、愚者は体験に学ぶ、先賢に学んで自分を練る、

講義主題 : 一、東洋思想を学び、価値観を高め、人間力の向上を目指す。

二、経営の原理原則を学び、戦略の仕掛けと仕組みを学ぶ。

三、お互いに価値観を語り合うことにより、志・使命を学び合う場とする。

第6期は、東洋哲学 歴史から、現代の経営に置換え学びます。

第6期予定	日程	テーマ
第1回	3月19日(月)	「山本勘助と武田信玄」に学ぶ、トップと参謀の条件
第2回	4月16日(月)	「武田家の事業継承」に学ぶ、成功例と失敗例
第3回	5月21日(月)	「真田一族(三代)」に学ぶ、中小企業経営の生残り戦略
第4回	6月18日(月)	「織田信長の破壊と創造」根底は生まれつきの帝王学
第5回	7月9日(月)	「徳川吉宗の目指した改革」人材登用の極意
第6回	8月13日(月)	「小栗忠順」明治維新の未来を創った天才戦略家
第7回	9月11日(火)	「山田方谷と河合継之助」名宰相の生き方の違い
第8回	10月16日(火)	「クラウゼビッツ戦争論」強いリーダーの条件
第9回	11月13日(火)	「クラウゼビッツ戦争論」戦略の達人になる!
第10回	12月11日(火)	「ランチェスター弱者の法則」中小企業の経営戦略の極意
第11回	1月15日(火)	「君主論」非常の論理、悪の人心掌握術
最終回	2月19日(火)	「曹操孫子注釈」戦略・戦術策定の仕組みを学ぶ!

以上で予定しておりますが、皆様の希望があれば、内容を変えます。

場所 : 亀戸駅前カメラアプラザ OR 地下鉄東陽町駅前産業会館(会議室)

会費 : 3000円(会員以外 都度参加メンバー)

(6期会員メンバーは、2000円、録音CD送付)

宿泊研修は別途実費(1万円予定)

未来創造志塾 6期 1回 (H19年3月19日)

「山本勘助と武田信玄」に学ぶ

～ トップと参謀の条件とは？ ～

(1) 山本勘助の役目と役割は、何だったのか？

(2) 信玄が勘助に、何を期待したのか？

～ ～ ～ その背景、環境から、信玄の苦悩が見える！ ～ ～ ～

(3) 徳川幕府の基礎となった甲州流軍学のポイント

山本勘助 1493(明応2)～1561(永禄4)

名を晴幸といい、武田信玄の足軽大将の一人。三河の国牛窪の人という。吉野冠者重季の後裔という。父祖は代々駿河国富士郡山本村に住し、祖父貞久は今川氏に仕えて軍功をあげ、性を山本に改めた。勘助の父は図書といい、明応2年にその4男に生まれたという。初め源助貞幸と称したと伝えられ、12歳で三河の国牛窪の牧野家の家臣大林勘左衛門の養子となり、勘助と改めた。20歳の時、養家を去って諸国遍歴の旅に出たという。その後、武田信玄に仕え、重用された。「甲陽軍鑑」によると、天文12年(1543)勘助は武田家の重臣板垣信方の推挙によって信玄に仕え、その一字を賜って名を晴幸と改めたという。色は黒く片眼で足はびっこであったともいう。信玄は勘助に二百貫文の知行を与え、足軽二十五人を付属させ、その後、知行五百貫文足軽五十人に増加させたという。しかし異説もあり、三河出奔の後、駿河の今川氏に仕えたが、今川義元がこれを軽んじたため、駿河を去って甲斐に赴き、武田信玄に仕えたともいう。こうした点から、従来は勘助の实在そのものを疑問視する意見が強かったが、近年になって、菅助と明記された弘治三年の武田晴信の書状が発見(釧路市川文庫)されるに及んで、实在の人物と証明された。かなりの重い地位。

「甲陽軍鑑」

作者 高坂弾正昌信(長篠合戦後、長坂長閑齋と跡部大炊助殿参る)

甥 春日惣次郎

小幡景憲(祖父足軽大将小幡彪盛 小幡正盛の三男)

? 甲陽軍鑑が書かれた真の目的は?

経営のヒント? 背景・意図・関係性を探れ!(5W2H)

「甲陽軍鑑」の中の「理想の上司と部下」・・・武田信玄と勘助の関係

信玄が勘助に期待していたことは何か?

勘助の役目・役割は、何か?

? 信玄は本当に理想の上司だったのか?

勘助は本当はどんな人物だったのか?

経営のヒント? 事実を探れ!(意見ではないよ)

期待と役割を考えれ! 理想と現実との差は?

「甲陽軍鑑」甲州流軍学のポイント

徳川家康が取り入れたことは何か?

- ・ 法治制度(分国法)
- ・ 国づくりの基礎
- ・ 技術者集団

経営のヒント? 戦略策定とは「選択と集中」

その背景を探ろう!・・・何故、そうしたのか?

武田信玄 指揮官としての3つの欠点

1. 北進策に固執
2. 川中島での「キツツキ作戦」
3. 後継者の勝頼に「諏訪」姓を名乗らせたこと

経営のヒント? 戦略・方針決定した決断の前提は何だったのか?

戦略論「孫子」の功罪

= 信長「君主論」との差となった!

経営のヒント? お互いの長所と短所を比較しよう!

信玄と信長、謙信との戦略の相違点は?

武家の棟梁の家系を継承する甲斐源氏

信玄の帝王学の師は禅の高僧たち(臨済宗長禅寺岐秀元伯・恵林寺惟高妙安、快川紹喜など)

孫子四如の旗「風林火山」

火攻篇「名君名将は、つねに戦争の根本の目的を見失うことがない。だからこそかれらは慎重なのだ。有利、確実、かつ止むを得ざる場合にのみ兵を動かして戦闘をまじえる。およそ一国の君主たる者は、怒りによって兵を起こしてはならぬ。戦いの結果が利益をもたらすかどうかという客観的判断によって行動すべきである。怒りは時がたてば喜びにも変わるだろう。だが国は、亡んでしまえばそれでおしまいであり、人は死ねば生き返らないのだ」

武田流軍学の眼目の一つ **経営のヒント? 「後途の勝を肝要とする」**

個々の戦闘は、あくまで次の、より大きな目標に近づくための手段に過ぎないのだから、目先の現象や感情に振り回されることなく、将来の利害、大局の得失にもとづいて判断し、行動せよというものである。

無敵武田騎馬軍団の神話と実際

イメージ戦略

機動力を保障するシステム

軍馬の供給力と管理技術

信玄の人材活用術 甲陽軍鑑品第4 1「法度の元5つの事」

経営のヒント? 評価・処遇は「上中下をよくわけて」繰り返し強調している。不公平こそ意欲の減退

1. 大将が人材を正しく評価して、その奉公人の得意とするところを知り、それに応じてさまざまな任務を与えること。
2. 士分のもとはもとより、大小上下の全ての奉公人に対して、その手柄の上中下をよく見極め、また手柄のない者に対しても上中下をよく見分けて、鏡に映るように正確に把握し、少しもえこひいきのないようにすること
3. 大将は慈悲を忘れぬことが肝要である。
4. 大将があまりに怒ることがなければ、奉公人は油断するものである。油断がでると思慮ある者も法度にそむき、上下ともに損失を受ける。また怒りを示す場合にも奉公人の罪の上中下にふさわしく、軽い罪については許すことも必要である。これが法度の基礎である。

歴史上の「事実」より、歴史を通しての「眞実」を大切に！

武田信玄の経営

1. 情報収集能力の重視

山伏・巫女・忍者・僧侶・商人など活用

三者「相見」諜報収集

「見方」謀略

「目付」観察

インプットとアウトプット

2. 本社制度と支社制度

小さな本社

大きな支社（地方自治）

3. 組織体系

親戚筋・譜代衆・先手衆・国衆・旗本諸役人（職・足軽隊）

ムカデ

4. 人物鑑定法

分別と才覚：（心・精神）（業・技術）

分別の前提は遠慮だ。遠慮というのは自分で判断のつかないことを、先輩や師など経験の深い者に聴くということだ。遠慮があって、よい知恵を得て、分別すれば、いい工夫を生む才覚が得られる。

5. 甲州法度之次第

上巻（57ヶ条） 信玄が1547年に制定（法の下での平等）

軍事・司法・経済・税制・宗教

下巻（99ヶ条） 信繁が制定した家訓が基礎

倫理・武道・兵法・礼儀作法